



総研大ニューズレター

第100号 2016.10発行

●目次

【今月のトピックス】

総研大の皆さんへ： ダルマの目に墨を！

岡田泰伸 学長

プレスリリース

「縄文人の核ゲノム配列をはじめて決定

広報社会連携室

～東ユーラシア人の中で最初に分岐したのは縄文人だった～」

学融合レクチャー「大統合自然史Ⅰ（宇宙・地球編）」

学融合推進センター

中高生のための科学セミナー

広報社会連携室

Summer School 2016 “Observe, Read, Create the Life”

機能分子学専攻

地域文化学専攻・比較文化学専攻オープンキャンパス

地域・比較文化学専攻

平成28年度サマースチューデント（夏の体験研究）プログラム

天文科学専攻

NIGINTERN 2016

遺伝学専攻

【受賞・採択情報】

【イベント情報】

主なイベント予定

10月3日

平成28年度秋季総合研究大学院大学入学式

10月3日-6日

平成28年度後学期フレッシュマンコース

10月10日

第21回自然科学研究機構シンポジウム

10月15日

日本文学研究専攻 入学説明会 & 平成28年度第1回特別講義

10月26日

地域・比較文化学専攻 オープンキャンパス

10月27日

国際日本研究専攻入学試験説明会

10月30日

日本歴史研究専攻大学院説明会

【今月のトピックス】

● 総研大の皆さんへ： ダルマの目に墨を！

—総研大ニューズレター第100号 発行にあたって—

総研大は、大学共同利用機関がその優れた研究環境を利用して研究者育成を行うために、我が国で最初に創設した独立大学院大学です。それゆえ、総研大には他大学とは異なる使命と社会貢献を果たすことが求められています。すなわち、それぞれの分野の後継者を育成すると共に、社会が求める多様で優れた研究者（研究関連職従事者を含む）を世に送り出すという役割です。そのためには、研究者育成のための固有の教育システムを作り出して、これを示す必要もあります。また、この点も含めた総研大の改革を、創設よりすでに28年を経て見られる社会の状況やニーズの変化に対応した形で早急に実現して、一皮むける必要があります。それを行うのが第3期の機能強化構想です。総研大生の皆さんには、「Yasu通信」を通じてこれに関連するメッセージも送ってきましたので、今回は主として教職員の方々に本メッセージを送りたいと思います。

第3期機能強化を実現させるためには、各基盤機関および機構等法人との関係の強化が不可欠です。私は教授として基盤機関にいた時にも、所長となってから機関と専攻の運営にかかわる中

で、また機構の理事となって教育担当もする中で、総研大（葉山）と基盤機関や機構法人との間に深い溝があることを感じてきました。それゆえ、私は基盤機関連係と機構連係の実現を、学長着任当初より目標に掲げ続け、これまでの2年余かけて多くの困難や問題点を抱えながらも、そのための仕組みを作り出すことができたのが、それぞれ学融合推進機構（とくに主幹会議）とアドバイザリーボードなのです。この仕組みを中身のあるものとするための必須要件は、何よりも基盤専攻および先導研の教職員の皆さん一人一人の後継者育成への熱意と、時代と社会のニーズに対応するという意識改革だと思います。

各基盤機関や機構等法人にも、それぞれ創設来かなりの年を経て、時代と社会に即した新しいあり方が求められています。この点においても人材育成は1つの鍵なのだと思います。その意味でも、基盤教員一人一人に熱意と意識改革が求められているように思います。大学における「教育雑務」から離れて、主として自分の専門に閉じこもって、（共同研究も含めて）研究中心の生活をしていけばよい時代ではもうないのです。世界レベルの研究推進や、共同研究や大型施設共同利用の提供も、今や大学共同利用機関の専売ではなくなっているからです。社会が求める人材育成の場として、来年度設置予定の学融合推進機構の学融合教育推進部が進める全学カスタムメイド教育に参加し、これを活用していただきたいのです。そこでの中核的事業は、研究倫理も含めてすべての研究職に就く人が身につけるべきことの総合教養教育、分野を跨ぐ内容の分野横断型教育、そしてインターンシップです。学生たちは、各自のニーズに見合った形でこれらの教育を受けることによって、広い視野の獲得、異なる分野の知識や新しい技術の習得、キャリアパスの形成などに加えて、学生同士の横のつながりを獲得することもできるので、サイエンス的メリットのほかにメンタル的メリットが得られます。このような学生を持つことは教員の皆さんにとっても大きなメリットとなりますし、学生と共同で進める研究にも一味違う質やレベルアップがもたらされることになるでしょう。現今、4機構にも新学問分野創生に向けた機構間共同研究の推進が求められています。総研大は、4機構と宇宙研を包摂した構成になっており、ヒトとヒトのつながりも既に4機構・宇宙研を跨ぐ形でできていますので、学融合研究推進部が支援することになる萌芽的異分野連繫共同研究事業は、機構間連携新分野創生共同研究の芽をはぐくむ良い場となるに違いありません。教育面でも研究面でも、学融合推進機構はあなた任せの教養部のようなものではなく、基盤機関の教員の方々のアンガジェによるボトムアップ的運営参加と事業活用が求められているのです。



先導研教員は、大学共同利用機関には属していませんので、基盤教員と同じ状況にあるわけではありません。2013年1月に（私も評価委員の一人に加わって）まとめられた“生命共生体進化学専攻第1回外部評価報告書”には、この点に関連して「基盤機関に依存しない現在の専攻は、その存立の基礎に脆弱が見られる」と指摘した上で、その解決には「何らかの基盤機関を別途設ける方向で努力し」との意見も紹介しつつ、「学融合推進センターの一部に基盤機関の役割を持たせ、その上に研究科が存立するという方向で進むべき」と述べています。それゆえ、私は着任来それに沿っての提案を行ってきましたし、来年度立上予定の学融合推進機構との関連においても、これに沿った呼びかけを行いました。先導研創設時（1998年）の理念では、先導研は基盤機関全体が設置・運営し、学問動向を見て10年ごとにその専攻は見直されることとされていました。しかし、途中（2007年）で現在の形に固定化されることとなり、基盤機関のように運営会議で外部からのチェックを受けることもなく自己運動に任されてきました。それゆえ、先導研の将来は先導研教員自らが自主的に決めるより他ありません。新たな大学共同利用機関を創出する方向を取るのか、既設の大学共同利用機関との連携または統合をはかる方向を取るのか、あるいは学融合推進機構を自らの基盤機関的なものとする方向を取るのか、それとも先導研としては発展的解体の方向をとるのか。機構や基盤機関の再編が取り沙汰されはじめた状況から考えると、これについては速やかに決断して行動を起こし始めなければ遅きに失することになるように感じています。

私自身は、1992年に生理研に教授として移動してから2007年に所長となるまでの15年間に15人の総研大生を受け入れましたが、そのうちの13名が博士号、2名が修士号を取得しました。現在、この博士となった13名は、教授・准教授各1名、講師・助教各2名、米国滞在ポスドク2名、学振RPD1名、民間企業研究員4名と、全員研究者となっています。岡崎での私の研究の発展と転回と展開は、彼ら総研大生との出会いと協働によってはじめて達成されたものであります。彼らを含めたすべての総研大修士のためにも、私は身を捨ててでも、第3期機能強化の実現に全力を尽くしたいと考えてきましたし、今もそう考えています。



総研大の第3期機能強化のダルマの目に墨を入れるのは皆さんです。総研大職員一人一人の熱意と尽力こそが、総研大のプレゼンスを高める力であり、そしてそれが基盤機関と機構等法人をも強めることになり、わが国と世界の学術を守り育てることに繋がるのです。(2016.9.25)

【総研大学長 岡田 泰伸】

● プレスリリース

「縄文人の核ゲノム配列をはじめて決定

～東ユーラシア人の中で最初に分岐したのは縄文人だった～

8月29日(月)、学術総合センターにて、総研大遺伝学専攻および国立遺伝学研究所の斎藤成也教授、総研大遺伝学専攻博士課程修了生(現:国立科学博物館人類研究部研究員)の神澤秀明氏がプレスリリースを行いました。当日、会場には新聞、テレビ局あわせて12社が来場されました。9月1日のプレスリリース解禁後、多くのメディアで掲載され、大きな反響がありました。

【メディア掲載一覧】

NHK(テレビおよびラジオ)NEWS、朝日新聞(朝刊およびDEGITAL)、東京新聞 朝刊、日本経済新聞 夕刊、読売新聞 朝刊、岩手日報 WEB、大分合同新聞 WEB、神戸新聞 NEXT、静岡新聞 SBS@S、中日新聞 WEB、カナロコ、マイナビニュース他。

プレスリリースの概要は下記の通りです。

【概要】

国立遺伝学研究所集団遺伝研究部門および総合研究大学院大学遺伝学専攻の斎藤成也教授らのグループは、福島県北部にある三貫地貝塚から出土した縄文時代人(縄文人)の歯髄からDNAを抽出して、核ゲノムの一部を解読することに成功しました。

これまで縄文人のDNAについては、ミトコンドリアDNAの情報しか得られていませんでした。今回、ミトコンドリアDNAの数千倍にあたる核ゲノムのDNA配列1億1,500万塩基対を決定しました。このゲノム情報を、現代日本列島人と比較解析したところ、縄文人はアイヌ人にもっとも近く、ついでオキナワ人、そしてヤマト人(アイヌ人とオキナワ人を除く日本列島人)に近縁であることが明らかになりました。さらに、縄文人は、現代人の祖先がアフリカから東ユーラシア(東アジアと東南アジア)に移り住んだ頃、もっとも早く分岐した古い系統であること、そして、現代の本土日本人に伝えられた縄文人ゲノムの割合は15%程度であることが明らかになりました。

今回、縄文人の核ゲノムの一部が解読されたことによって、縄文人が現代の東アジア人と比べて遺伝的に特異な集団であったことが明らかとなりました。今後、縄文人ゲノムデータを充実させ、それらを比較解析することによって、縄文人のたどった進化史が明らかになり、日本列島人の起源と成立を知ることにつながると期待されます。



記者会見する斎藤教授(右)と神澤研究員(左)

この研究成果は、Journal of Human Genetics (Online 版) に掲載されました。

【論文全著者】

Kanzawa-Kiriyama Hideaki 神澤秀明 (総研大遺伝学専攻 修了生)
Kirill Kryukov (東海大学医学部ポストドク研究員)
Timothy A. Jinam (総研大遺伝学専攻 助教; 国立遺伝学研究所集団遺伝研究部門 助教)
Hosomichi Kazuyoshi 細道一善 (総研大遺伝学専攻 助教; 国立遺伝学研究所人類遺伝研究部 助教 {現在: 金沢大学金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 准教授})
Saso Aiko 佐宗亜衣子 (東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 大学院生)
Suwa Gen 諏訪元 (東京大学総合研究博物館 教授; 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 教授)
Ueda Shintaroh 植田信太郎 (東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 教授)
Yoneda Minoru 米田穰 (東京大学総合研究博物館 教授)
Tajima Atsushi 田嶋敦 (金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 教授)
Shinoda Ken-ichi 篠田謙一 (国立科学博物館 副館長)
Inoue Ituro 井ノ上逸朗 (総研大遺伝学専攻 教授; 国立遺伝学研究所人類遺伝研究部門 教授)
Saitou Naruya 斎藤成也 (総研大遺伝学専攻 教授; 国立遺伝学研究所人類遺伝研究部門 教授; 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 教授)

【論文原題】

A partial nuclear genome of the Jomons who lived 3,000 years ago in Fukushima, Japan

【発表雑誌名】

Journal of Human Genetics

詳細については、次のURLをご覧ください。 <http://www.soken.ac.jp/news/30232/>

※特に総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携室までご連絡ください。

【広報社会連携室】

● 学融合レクチャー「大統合自然史Ⅰ(宇宙・地球編)」

「大統合自然史(仮称)」とは、平成30年度からの総研大全学教育科目としての発足を目指し、昨年度から企画・開発が進められているものです。学融合推進センターのサポートのもとに進められている授業開発の中心は、大統合自然史授業開発研究会です。同研究会はすでに5回開催され、参加者は総研大の全研究科におよんでいます。平成28年度は、検討内容の一部について、学融合レクチャー「大統合自然史Ⅰ(宇宙・地球編)」として試行授業が実施されました。以下では、「大統合自然史(仮称)」の科目構想の全容を紹介し、さらに本年実施した学融合レクチャー「大統合自然史Ⅰ(宇宙・地球編)」について、企画の解説と実施状況の報告を行います。

I. 「大統合自然史(仮称)」の科目構想

大統合自然史という言葉は耳慣れないと感じる方も多いでしょう。ここで目標としているのは、人類を含む自然界の全体で宇宙開闢以来今日までに生じた森羅万象を、宇宙・地球・生命・人類という4つの切り口から、その歴史的な関連性を明らかにした全体像を描くことです。受講した総研大生が、それぞれの専門分野を大統合自然史の中に位置づけることにより、広い学問体系を常に意識しつつ専門性を高めるようになることも大きな狙いの一つです。同様な発想に基づいた試みはすでにビッグ・ヒストリーとして、米国のデイビッド・クリスチャンにより提唱されています。この考え方は日本でも、高校レベルの教育、さらには各地の自然史系博物館の展示などにも取り入れられています。また一般市民の間でも認知度が高く、関連する書籍出版も豊富で、インターネット上にも多くの情報が溢れています。

そのなかで、総研大としての取り組みでは、次の2つの特徴を生かそうとしています。

(1) 総研大教員が、文系から理系の幅広い分野において、世界をリードする研究機関に所属している事、(2) 在学する学生たちが、専門分野で卓越した研究者としての活躍を目指している事。

総研大第3期中期目標の中で、「大統合自然史(仮称)」は教育に関する目標を達成するための措置の一つとして次のように表現されています。「自立した研究者として、自らの研究の学問的及び社会的位置付けを俯瞰するための総合教育プログラムを平成28年度に検討、平成29年度試行実施の上構築し、全学的に実施する。」

II. 学融合レクチャー「大統合自然史Ⅰ(宇宙・地球編)」の授業企画

試行授業という性格を考慮して、様々な試みを含んだ授業計画が企画されました。公開されているシラバスからその一端を伺ってみます。

授業企画の出発点である「科目の目的」は、「宇宙の始まりから現在まで、人類を含む全自然界で生じた出来事について、幅広い専門研究分野の成果を糾合することで、時間軸に沿った森羅万象の描像を構築できることを学ぶ。これによって、個別専門性に留まらない独立した視座を得て、自らの研究の学問的および社会的位置付けを俯瞰できるようになることを目的とする」と設定されています。

また、この科目の受講を通じた「学習成果・習得する知識・技能」としては、「(1) 宇宙・地球・生命・人類・文化の各領域における歴史的出来事の概要を、領域相互間の関連を含めて説明できるようになる。(2) 今後の自己の研究課題と志向する分野について、その学問的及び社会的位置づけを語るができるようになる。(3) 五感を超えた自然界の認識のため、様々な道具が使われることを知る。(4) 適切に選択された文献を読みこなし、課題内容にあったレポートを書くことができる。(5) 現物資料をもとに推論を深め、問題意識を持つことができる。(6) 他者とのディスカッションを効果的にすることができる。」と盛り沢山の可能性が期待されています。

授業実施場所の選定は、最重要案件でした。研究の現場に触れられる事、交通の便の良さ、利用可能な宿泊施設の存在などの条件を勘案し、早い段階から、総研大の3専攻を擁する高エネルギー加速器研究機構(KEK)のつくばキャンパスに白羽の矢を立てました。これによって、つくばに数多く立地する研究機関の協力を得て、授業の充実度を上げる可能性が生まれます。

これらの条件のもと、目標を実現する授業案が作成されましたが、そこには以下のような教育手法が、相互に関連を持ちながら組み込まれています。

- (1) 課題図書購読
- (2) レポート課題の提出
- (3) 教員・学生が混在する環境での話し合いや議論
- (4) 講義の受講
- (5) 研究装置や関連する現場の見学

III. 学融合レクチャー「大統合自然史Ⅰ(宇宙・地球編)」実施報告

以下の文中では、総研大担当教員の敬称は省略させていただきました。

7月25日、学融合推進センターの鎌田進と七田麻美子により、遠隔授業システム TELAS を使ったガイダンスで開始されました。科目全体の紹介、授業で用いる教育方法の説明、そして課題図書とレポート課題の提示が行われました。その後、8月31日までは読書と課題作成に専念する時間です。課題図書は次の3冊から、各自が自分に合ったものを選んでもらいました。

課題図書(1)

『宇宙・自然システムと人類』海部 宣男(著)、佐々木 晶(著)、杉山 直(著) 出版社: 放送大学教育振興会; 新訂版(2014/03)

課題図書(2)

『地球環境 46億年の大変動史』田近 英一(著) 出版社: 化学同人(2009/5/30)

課題図書(3)

『松井教授の東大駒場講義録—地球、生命、文明の普遍性を宇宙に探る』松井 孝典(著) 出版社: 集英社(2005/12)

学生が選択した本は（２）と（３）がおよそ半数ずつで、（１）の選択者はいませんでした。

9月7日から3日間の集中講義が始まりました。参加学生は、単位取得を目指す7名と、聴講する2名の計9名です。因みに、授業担当教員も同様な数で、さらに聴講教員も同様な数が参加しました。

【表：今回実施した授業時間割です（敬称略）】

月	日		場所	タイトル	担当者
7月	25日	第1講	TELASによる遠隔講義	ガイダンス	鎌田・七田
～8月	31日	第2講	各自	読み書きから学ぶ 宇宙・地球	
9月	7日	第3講	KEK 講義室	議論を通じて触れる 宇宙・地球 そして他人の考え	七田・鎌田
		第4講	KEK 講義室	物理法則はどのように創られるか:人間の自然観と物理学の連繫	筒井
		同上	Belle-II 測定器、Super KEKB 加速器、放射光実験室		宇野 小磯 原田
		第5講	KEK(懇親会)	JAXA って なあに？	石川
9月	8日	第6講	JAXA 講義室	宇宙 138 億年の進化：銀河、恒星、惑星、物質、そして生命	大石
		第7講	JAXA 実験棟	ISS・きぼうを利用する科学の実際	石川
		第8講	JAXA 見学コース	宇宙を研究する・宇宙で研究する	石川
		第9講	地質標本館映像室	地質・岩石を研究する - 地球の歴史と営みの解読を目指して	外田
		同上	地質標本館展示室		地質標本館スタッフ
9月	9日	第10講	KEK 講義室	氷床・氷河の氷から解読する過去の地球環境変動	東
		第11講	KEK 講義室	地史と生命史をつなぐもの - 南極からの視点	伊村
		第12講	KEK 講義室	大統合自然史から学ぶもの	七田・全教員

（1日目）

始めに、鎌田進が「大統合自然史の要所」を復習し、その後、七田麻美子の指導で、選択した課題図書ごとに2グループに分かれ、読んだ本の内容をグループ内で確認、その後、それぞれのグループ代表が他グループに自分たちが読んだ内容を説明しました。こうして、読んで理解した内容を言葉で表現することに挑戦しました。

次いで、素粒子原子核専攻の筒井泉が「物理法則はどのように創られるか：人間の自然観と物理学の連繫」というタイトルで、素粒子物理学の現在の到達点「標準モデル」を紹介した後、西洋と日本での自然法則認識の流儀の相違について話され、文化背景と自然法則の受容という、人間

と自然認識を繋ぐ話題が提供されました。



Super-KEKB 加速器を見学する学生たち

引続いて、KEK の広い敷地内をバスで移動しながら、Belle-II 測定器、Super-KEKB 加速器、そして放射光実験室を訪れました。

素粒子原子核専攻の宇野彰二の案内で、宇宙の始まりとされるビッグバンに迫る物理条件下での素粒子の振る舞いを調べる Belle-II 測定器を見学しました。ビッグバン環境に近い条件を作り出す Super-KEKB 加速器は、加速器科学専攻の小磯晴代に案内していただきました。受講生達は、地下10数メートルに設置された全周3kmの円形加速器の一部を間近に見ながら説明を受けました。

最後に放射光実験室の一つを見学しました。ここでは、作成したタンパク質の結晶に、

電子ビームから発生する強いX線を当て、その回折像を解析することで構造を求めます。夕食を兼ねた懇親会では、参加者の自己紹介、そして翌日のJAXA（宇宙航空研究開発機構）訪問に備えて、宇宙科学専攻の石川毅彦による「JAXAってなあに」と題したディナートークがありました。水が大変貴重な国際宇宙ステーション（ISS）では「今日のコーヒーは、明日のコーヒー！」だそうです。狭い宇宙船内のリサイクルから、地球の環境問題にも思いを馳せる契機となりました。

（2日目）

朝から、バスでJAXA 筑波宇宙センターに向かいます。天文科学専攻の大石雅寿が「宇宙138億年の進化：銀河、恒星、惑星、物質、そして生命」と題した壮大なお話をしてくださいました。宇宙開闢以来の時間の流れの中、ビッグバンで生まれた標準モデル素粒子を材料に、星の一生と共に様々な元素が作られ、それと並行して、様々な星や宇宙の構造が進化してきた事、そして宇宙の塵の上では、生命を構成するのに不可欠な分子も作られているという話しでした。

講義後、石川毅彦とJAXA スタッフの案内で、宇宙実験棟を見学しました。ここでは、ISSに設けられた日本の実験棟「きぼう」で行われる実験のため、実験装置を開発し、実験の遠隔コントロールを行うと共に、宇宙実験との比較のための地上実験データを測定しています。昼食後は一般見学コースを見学しました。ここでは、日本の歴代の人工衛星や、ロケット研究黎明期のペンシルロケットから、ISSへの物資運搬を担う「こうのとりの打ち上げ用HII-Bロケット模型などが展示され、日本の人工衛星やロケット開発の歩みを学ぶことができます。

その後、隣接した産業技術総合研究所（産総研）地質標本館にバスで移動しました。地質標本館での学融合レクチャー開催は、産総研の後援を得て、特別なご好意の下で実施できる運びとなりました。地質標本館の利光誠一館長の挨拶の後、極域科学専攻の外田千智による「地質・岩石を研究するー地球の歴史と営みの解読を目指して」と題する講義が行われました。地球の成り立ちや構造について、地質標本館の展示を参照しながら、説明が行われました。講義の後、地質標本館スタッフの方々の案内で展示室を廻り、その場で様々な質問に答えていただきました。日本周辺の地震震源分布や、地層の剥ぎ取り標本から知る過去の地質現象など、日頃は見えない地下で起きている現象を認識する貴重な機会でした。



講義と見学を終えて、実機の H-II ロケット前で記念撮影。後ろの白色のロケットらしい形はブースターで、本体はその後ろにある黄色い円筒。

(3日目)

朝から KEK の講義室で、極域科学専攻の東久美子の講義「氷床・氷河の氷から解読する過去の地球環境変動」を聴講しました。氷の中に閉じ込められた過去の空気や不純物、氷自身の同位体分析を通じて、過去の気候・環境を知ることができること、また、南極と北極の氷の分析結果を比較することで過去の地球規模のイベントを知ることができるというお話でした。南極の氷からは、数十万年～百万年前まで調べられるそうです。

続いて、極域科学専攻の伊村智による「地史と生命史をつなぐもの—南極からの視点」と題する講義がありました。南極が低温で超乾燥、さらに強い紫外線という極限環境であること、そこで生きるコケ類の生活史をもとに、全球凍結時の生命の連続性や生命が海から陸上に現れた状況など、当時の地球環境と南極環境を対比して議論する、とても興味深い話でした。

最後の締めくくりは「大統合自然史から学ぶもの」と題するディスカッションです。七田麻美子のリードのもと、大統合自然史で何を学んだか、今後何を学びたいかを主題に、学生・教員が混じり合っただの話し合いをしました。教員の発言が特に活発であった（活発すぎたかもしれません）のが印象的です。



地層剥ぎ取り標本について、地質標本館スタッフの説明を聞く

IV. 今後の進め方

今回の「大統合自然史 I (宇宙・地球編)」の試行授業を通じて得られた成果や課題を検討して、来年度に予定している「大統合自然史 II (生命・人類編)」の企画を進めることとなります。さらには平成30年度を目指した正規科目化に向けて、サポート体制のあり方や準備が必要な資料など様々な側面から検討をして行く事になるでしょう。総研大の強みから総研大の魅力を生み出すため、全学のサポートを得ながら、準備を進めて行きます。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

「大統合自然史 I (宇宙・地球編)」の実施にあたっては、各方面のとても多くの方々の献身的なご協力がありました。大変感謝しており、この紙面を借りて、心よりお礼申し上げます。

【学融合推進センター長 鎌田進、同特任准教授 七田麻美子】

● 第9回中高生のための科学セミナー「 Bangladesh の二度目の小学生」

7月27日(水)、横須賀市自然・人文博物館を会場として、中高生のための科学セミナー「 Bangladesh の二度目の小学生」を開催しました。このセミナーは総研大の地域社会交流プログラムの一環として毎年この時期に開催しています。今回は講師として、総研大 学融合推進センターの内川明佳助教が2時間の講演を行いました。当日は25名が参加してくれました。



Bangladesh の子供たち (撮影:内川助教)

講演は先生の自己紹介から始まり、 Bangladesh で長期間、現地の子供たちと共に生活していた文化人類学者である内川助教の目から見た、子供たちの日常生活が紹介されました。中高生たちは、メモを取りながら、日本の子供たちとは異なる生活を送っている現地の子供たちについての話しを真剣に聴いていました。

アンケートでは、「たくさんの写真やグラフがわかりやすかったので理解しやすかった。」「細かい説明や体験談を通して、ネットや本だけではわからない Bangladesh の事について、知ることが出来て良かった。」「人類学という分野をはじめて知った。」「人類学はあまり触れたことがなかったので、新しい発見や気づかされることが多く勉強になった。」「子供が学校に行くことが当たり前ではないことを改めて実感した。」などの意見があり、とても好評だったようです。

また、内川助教には講演終了後も、質問に来る中高生に丁寧にご対応いただきました。中高生には充実した一日になったかと思います。最後にこの場を借りて、ご協力いただいた「横須賀市自然・人文博物館 (入館無料です!)」の皆様及び参加者の皆様に御礼申し上げます。今後の中高生のための科学セミナーにも是非ご期待ください。

講演の様子



【広報社会連携室】

● Summer School 2016 “Observe, Read, Create the Life” 開催報告

2016年8月18-19日、総合研究大学院大学「統合生命科学教育プログラム」および自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンターの共催で Summer School 2016 “Observe, Read, Create the Life” を開催しました。本スクールは日本のみならず世界から学生を招き、バイオサイエンスの最先端のトピックについて講師の方々に講義して頂くことを目的としています。

今年はタイトルにもあるように「生命を観る、読む、創る」というテーマで行いました。自然科学の基本は対象をよく「観る」ことであり、近年の技術の進展は生命を構成する個々の細胞のみならず個々の分子の振る舞いの観察を可能としました。また、計測の高速化・自動化により生体試料から得られるデータ量は増加の一途をたどり、膨大なデータから重要な情報を「読む」必要性が生じています。さらに、生命とは何かを根源的に理解するには、生命と非生命の「境界」の研究や、積極的に生命を「創る」という構成的アプローチが有効です。本サマースクールでは、これらの分野で活躍する研究者の方々に講師として招いて基礎から応用までの講義をお願いするとともに、次世代のバイオサイエンスについて議論を行いました。

より具体的なトピックとしては以下の5つのセッションを企画しました（講師の肩書きは略称させていただきます）。Session 1. Single-molecule analysis of biomolecules：飯野亮太（岡崎統合バイオ）、上村想太郎（東大）、Session 2. Multicellular systems and cellular networks：椎名伸之（岡崎統合バイオ）、古瀬幹夫（生理研）、Session 3. Quantitative and advanced image analyses：青木一洋（岡崎統合バイオ）、石井信（京大）、Session 4. Molecular assembly, boundary between life and matter：加藤晃一（岡崎統合バイオ）、村田和義（生理研）、武村正春（東京理科大）、Session 5. Creation of life from matter 栗原顕輔（岡崎統合バイオ）、車愈澈（東工大）。

さらに、議論を活性化する討論参加者として海外から6名の研究者を招待しました。Ian Liao（National Chiao Tung Univ、台湾）、Hsin-Yun Hsu（National Chiao Tung Univ、台湾）、Huijuan You（National Univ of Singapore、シンガポール）、茂木文夫（Temasek Life Sciences Laboratory、シンガポール）、Hyeongseop Jeong（Korea Basic Science Inst、韓国）、Nipon Pisutpaisal（King Mongkut’s Univ Tech North Bangkok、タイ）。

本スクールには日本、中国、タイ、韓国、フランス、カナダ、ベトナム、パレスチナ、ウズベキスタン、インドと様々な国籍の学生が参加し、講師や討論参加者を含めた参加者は94名に達しました（写真1）。二日間に渡る講義では、討論参加者や学生から多数の質問が飛び出し活発に議論が行われ、とても活気あるスクールとなりました。当然ながら全て英語で行われましたが、大学院生のみならず学部生からも質問が出ていたのが非常に印象に残りました。二日目の午前には岡崎統合バイオサイエンスセンターのラボ見学も行い好評でした。今回のサマースクールでは筆者自身も多くを学び、さらに国内外の貴重な人脈を形成することができました。今後の研究教育活動に生かしたいです。



【機能分子科学専攻・教授 飯野亮太】

● 地域文化学専攻・比較文化学専攻オープンキャンパス開催

7月23日(土)、国立民族学博物館において、「平成28年度総合研究大学院大学 文化科学研究科 地域文化学専攻・比較文化学専攻のオープンキャンパス(入試相談会)」が開催されました。民博でのオープンキャンパス開催は、平成12年度に始まり、今年で17回目を迎えます。遠方からの参加者を含めて6名の来場者がありました。

入試相談会は、開会の挨拶に始まり、大学院と民博の概要、大学院の教育内容や入試などについて地域文化学・比較文化学の両専攻長からの解説があった後、質疑応答を行いました。参加者は真剣な表情で説明に聞き入っており、進学を想定した具体的な質問も多く、活発な質疑応答となりました。

その後、修了生による講話があり、今回は平成17年度地域文化学専攻入学の友永雄吾氏(龍谷大学国際学部准教授)に話して頂きました。民博を基盤機関とする学生ならではの貴重な体験を語られ、多くの人との出会いを通じて得られた現在に至るまでの研究の成果を紹介され、参加者からも好評でした。

交流会では、参加者と教員・在学生との歓談の時間を設けました。参加者からは、実際にキャンパスを訪れ、教員や学生と交流することで得られた情報も多く、大変参考になったという意見が寄せられています。



専攻長からの説明を聴く参加者

【地域・比較文化学専攻】

● 平成28年度サマースチューデント(夏の体験研究)プログラム

国立天文台・総合研究大学院大学サマースチューデントプログラムが夏休み期間中に実施されました。このプログラムは、大学理工系学部2年または3年に在学する学生が、8月から9月の間の2~4週間程度国立天文台に滞在し、受入教員の指導のもとで研究を行うことができる制度です。天文学研究に強い意欲のある学生に研究の機会を与えることにより、将来、天文学研究を志向する人材を育成することを目的としています。国立天文台の三鷹(東京都)、水沢(岩手県)、神岡(岐阜県)、岡山(岡山県)及び合同ALMA観測所(チリ共和国、サンチアゴ)のいずれか一つのキャンパスに滞在して研究を行い、研究受入期間最終日には国立天文台三鷹キャンパスで開催される合同発表会に参加し、成果発表を行っていただきます。過去には、このプログラムの修了生が実際に総研大に入学したケースもあり、学部学生にとっては大変貴重な体験が得られるプログラムとして定着しつつあります。

指導を希望する教員には研究指導内容のシラバスを提出してもらい、それをもととして学生が希望する研究を選ぶことで参加者を募りました。

教員は全部で23名。天文学の研究から装置開発まで非常に幅広い分野から選択できました。

今年は、10の大学から合計18名の学生が参加しました。2~4週間と大変短い研究期間でしたが、その中で、英語の文献を読みながら装置開発の基礎を学んだり、データ解析用のプログラムを書いたり、観測装置の仕組みを学んだり、大学の講義ではあまり触れない内容を経験するこ



ALMA観測所の現地スタッフと観測装置についての議論をしている様子

とができました。また、今年度から開始したチリの合同アルマ観測所でのプログラムに参加した学生は、アルマの山麓施設を訪問し、実際のアルマ望遠鏡システムの見学を行い、観測の運用を体験しました。成果発表会では、初めての研究発表で少し緊張気味の学生もいましたが、全員が研究成果をしっかりとわかりやすい資料にまとめて発表していました。



【天文科学専攻・准教授 伊王野大介】

● NIGINTERN 2016

遺伝学専攻では、7月に海外学生向けのインターン留学（NIGINTERN 2016）を実施しました。このプログラムは、海外の大学に籍を置く学部生・院生（Undergraduate/Graduate Students）が4週間遺伝研に滞在し、遺伝学研究の基礎を学ぶトレーニングコースです。今年度は、インド、カザフスタン、イギリス、台湾から、計6名が参加されました。



インターン生による研究室訪問

インターン生は、4週間、研究室訪問と研究活動を通して遺伝研の最新の研究設備にふれると同時に最先端の研究を「する」体験をしました。一方、研究活動とは「する」だけでなく、「話す」「聞く」ことも重要です。そのため、インターン生は科学英語プレゼンテーション講習会と一流の科学者によるセミナー等にも参加し、研究者に必須のスキルを学びました。トレーニングコースの締めくくりとして最

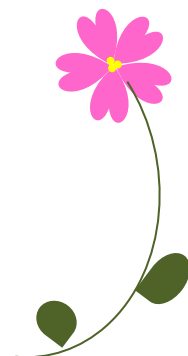
終日に NIGINTERN レポートシンポジウムを開催し、すべてのインターン生が4週間の研究成果を発表しました。インターン生が未来の科学者として羽ばたくことを期待しています。



【遺伝学専攻】

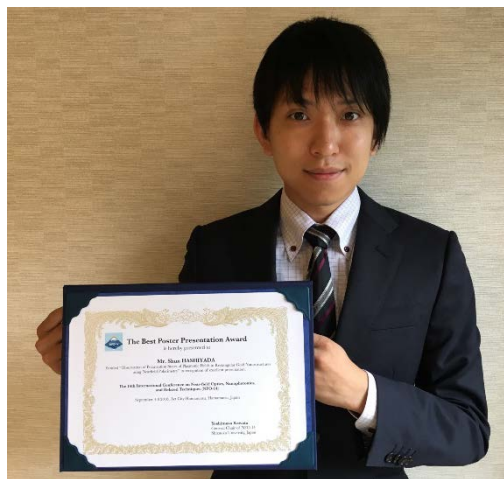
受賞

- 物理科学研究科 構造分子科学専攻 橋谷田俊さん
「NFO-14(The 14th International Conference on Near-Field Optics, Nanophotonics and Related Techniques)」において、「The Best Presentation Award」 受賞
- 物理科学研究科 構造分子科学専攻 須田理行 助教
第9回(2016年度)分子科学会奨励賞 受賞
- 物理科学研究科 構造分子科学専攻 石崎章仁 教授
「第18回サー・マーティン・ウッド賞」 受賞
- 高エネルギー加速器科学研究科 物質構造科学専攻 武市泰男 助教
「Asian Union of Magnetics Societies (AUMS)」 「Young Researcher Award」 受賞
- 高エネルギー加速器科学研究科 加速器科学専攻 山崎寛仁 准教授
日本学術振興会の「平成27年度特別研究員等審査会専門委員(書面担当)及び国際事業委員会書面審査員」の表彰を受賞
- 複合科学研究科 統計科学専攻 富田裕章さん
2016年度 統計関連学会連合大会において、「優秀報告賞」 受賞
- 複合科学研究科 統計科学専攻 武田朗子 教授
日本オペレーションズ・リサーチ学会において、「第6回 研究賞」 受賞
- 複合科学研究科 情報学専攻 岡田智裕さん
情報処理学会アクセシビリティ研究会(IPSJ SIG AAC)第1回研究会において、「学生奨励賞」 受賞
- 生命科学研究科 遺伝学専攻 飯塚朋代さん
日本進化学会第18回大会において、「優秀学生ポスター賞」 受賞
日本菌学会六十周年記念大会において、「学生優秀発表賞」 受賞
- 生命科学研究科 遺伝学専攻 津田勝利 助教
2016年度日本育種学会春季大会 「優秀発表賞」 受賞
- 生命科学研究科 遺伝学専攻 小野聖二郎 研究員
2016年度日本育種学会春季大会 「優秀発表賞」 受賞
- 先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 内海邑さん
「第26回 日本数理生物学会年会」において、「ポスター賞」 受賞
- 先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 八島健太 特別研究員
「第26回 日本数理生物学会年会」において、「ポスター賞」 受賞
- 先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 加藤貴大さん
日本鳥学会2016年度大会において、「ポスター賞」 受賞



受賞学生のコメント

構造分子科学専攻 橋谷田俊さん



2016年9月4-8日の間、アクトシティ浜松にて開催された The 14th International Conference on Near-Field Optics, Nanophotonics and Related Techniques (NFO-14)にてポスター発表を行い、The Best Poster Presentation Awardを受賞しました。受賞対象となった研究“Observation of Polarization States of Plasmonic Fields in Rectangular Gold Nanostructures using Near-Field Polarimetry”では、対称性の高い金ナノ構造体にキラリティのない直線偏光を照射すると、ナノ構造近傍にキラルな円偏光電場が発生し得ることを実験的に実証することに挑戦しました。

統計科学専攻 富田裕章さん

今回の受賞を大変嬉しく思います。大会運営にご尽力頂いた先生方、そして指導いただいております、統計数理研究所の逸見昌之先生、藤澤洋徳先生にこの場を借りて御礼申し上げます。本研究では多重代入法を用いた際の推定に関する問題を扱いました。研究の更なる発展を目指し、今後とも真摯に取り組むたいと考えております。

情報学専攻 岡田智裕さん

この度は学生奨励賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。受賞できたのも、ひとえに坊農研究室の皆様のご指導や、聴覚障害を持つ私が研究を進める際に手話通訳をしてくださった方々のご協力の賜物と深く感謝しております。

まだまだ課題の多い研究内容ですが、今回の受賞を励みに、より一層研究に邁進する所存です。



遺伝学専攻 飯塚朋代さん



おかげさまで2つの賞を頂くことができ、とても嬉しく思っています。
「菌」の「進化」が私の研究テーマなので、今回の受賞はとても励みになりました。
これからも良い研究成果を残せるよう精進します。

生命共生体進化学専攻 内海邑さん

この研究では、細胞内共生系において宿主と共生者が協調的に垂直伝播を進化させる条件を数理モデルによって求めました。その結果、共生系の起源が被食捕食系の場合は被食者による消化耐性の獲得が垂直伝達の進化を引き起こすこと、寄生系の場合は宿主による抵抗性の獲得がその進化を阻害することが明らかになりました。

(写真左) 内海邑さん



生命共生体進化学専攻 加藤貴大さん



日本鳥学会 2016 年度大会で、ポスター賞（生態・行動）を頂きました。スズメの性特異的死亡に関する生理的・生態的要因についての発表で、総研大の主論文として進めている研究です。

鳥学会では、これまで学会主催のポスター賞がなかったため、第一回の受賞者となることができました。さらに、副賞として株式会社 mont-bell さんからレインジャケットを頂きました。

対象種のスズメ

採択情報

○複合科学研究科 統計科学専攻 早水桃子さん

統計科学専攻の早水桃子さん（学生）の研究提案が、JST「さきがけ」平成 28 年度新規研究課題として採択されました。

研究課題：「基礎医学と社会医学をつなぐ離散幾何学的モデリング」

採択研究領域：「社会的課題の解決に向けた数学と諸分野の協働」

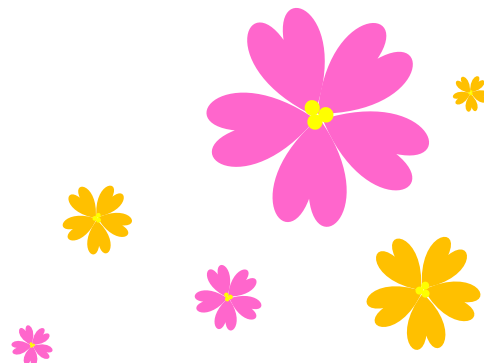
（研究総括：國府寛司 京都大学大学院理学研究科教授）

採択学生のコメント

統計科学専攻 早水桃子さん



私は医学や生物学の基礎となる数学の研究をするために医師から転身して総研大の学生になったという少し変わった経歴なので、自分のバックグラウンドを活かしきった研究課題が採択されたことを本当に嬉しく思います。これから三年半、私のベストを尽くしたいと思います。



【イベント情報】

●総研大の行事

10月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
3日		平成28年度秋季総合研究大学院大学入学式	http://www.soken.ac.jp/event/20161003/
3日(月)-6日(木)		平成28年度後学期フレッシュマンコース 開催場所：葉山本部	[和] http://www.soken.ac.jp/event/20161003_06/ [英] http://www.soken.ac.jp/event/20161003_06e/
4日(火)-7日(金)		学融合レクチャー「先端計測制御概論」 開催場所：国立天文台 野辺山電波観測所	http://d-sys.kek.jp/oudan-edu/gairon/gairon
8日(土)	9:30-16:00	核融合科学研究所オープンキャンパス2016 [総研大 後援] 開催場所：核融合科学研究所	http://www.nifs.ac.jp/welcome/2016/
10日(月・祝)	12:50-16:00	第21回 自然科学研究機構シンポジウム [総研大ブース出展] 開催場所：東京工業大学 蔵前会館	http://www.nins.jp/public_information/sympo21.php
15日(土)	13:30-17:00	日本文学研究専攻 入試説明会 場所：国文学研究資料館	http://www.nijl.ac.jp/~kyodo/soken.files/enter/seminar.html
15日(土)	15:00-16:30	日本文学研究専攻 平成28年度第1回特別講義 場所：国文学研究資料館 講師：入口敦志 准教授	http://www.nijl.ac.jp/~kyodo/soken.files/enter/seminar.html
17日(月)-22日(土)		第26回 国際原子力機関核融合エネルギー会議 [総研大 後援] 開催場所：国立京都国際会館	http://www-pub.iaea.org/iaeameetings/48315/26-th-IAEA-Fusion-Energy-Conference
26日(水)-28日(金)		学融合レクチャー「基礎計測制御デジタル技術」 開催場所：核融合科学研究所（土岐キャンパス）	http://www.soken.ac.jp/event/20161026/
26日(水)	13:00-17:10	地域文化学・比較文化学専攻 オープンキャンパス 開催場所：国立民族学博物館 4階	https://www.soken.ac.jp/event/20161026/
27日(木)	13:00-15:00	国際日本研究専攻入学試験説明会 場所：国際日本文化研究センター	http://www.nichibun.ac.jp/ja/education/graduate_s.html
30日(日)	13:00-16:00	日本歴史研究専攻大学院説明会 場所：国立歴史民俗博物館 大会議室	http://www.rekihaku.ac.jp/education_research/education/graduate_school/soukendai/admission/briefing.html

11月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
3日(木)	10:00-12:00	先導科学研究科・学術講演会 「サイコパスは“悪”か？」 講師：横田晋大 特別研究員 「縄文人はマメを育てたの？ー土器圧痕から探る縄文時代の植物利用」 講師：那須浩郎 助教 開催場所：葉山キャンパス	http://www.soken.ac.jp/event/20161103/
4日(金)	14:00-16:00	統計科学専攻 大学院説明会 統計数理研究所(立川)	http://www.ism.ac.jp/senkou/setsumeikai.html

5日(土)	13:00-17:00	2016年度先導科学研究科生命共生体進化学専攻 説明会・講演会 講演：「生命共生体進化学専攻における研究の最前線」 講師：飯田香穂里 准教授 「チャールズ・ダーウィンと進化論」 講師：那須浩郎 助教 「ドメスティケーションの考古学 ～縄文時代のダイズとアズキの栽培化～」 講師：Finlay Stewart 助教 「Diverse mechanisms for visual depth perception in arthropods ～節足動物の深さ知覚に見られる多様性～」	http://www.esb.soken.ac.jp/admissions/briefing_detail.html
12日(土)	13:00-17:30	生命科学研究科 基礎生物学専攻 大学院説明会 基礎生物学研究所 明大寺地区	http://www.nibb.ac.jp/graduate/index.html

●基盤機関の行事

10月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
開催中 -10月4日(火)	10:00-17:00	企画展「順益台湾原住民博物館所蔵・学生創作ポスター展 台湾原住民族をめぐるイメージ」 国立民族学博物館 本館企画展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/studentposter20160804/index
開催中 -10月11日(火)	10:00-17:00	展示イベント「ハチュカル——アルメニアの十字架石碑をめぐる物語」 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/exhibition/2016khachkar
開催中 -10月23日(日)		三鷹太陽系ウォーク2016 三鷹市内全域	http://www.taiyokei-walk.jp/
開催中 -10月25日(火)	10:00-16:30	カタカナ本とひらがな本 国文学研究資料館 展示室特設コーナー	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/kana.html
開催中 -10月31日(月)	10:00-20:00	Inforestすいた、みんぱくフェア特別企画「みんぱくに行って、探し出せ！」 EXPOCITY Inforestすいた	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20160901twitter
開催中 -11月29日(火)	10:00-17:00	特別展「見世物大博覧会」 国立民族学博物館 特別展示館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20160908misemono/index
開催中 -12月17日(土)	10:00-16:30	通常展示「書物で見る日本古典文学史」 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/bungakushi.html
10月4日(火)	14:00-16:00	第304回日文研フォーラム「木下恵介映画の見どころ——忘れられた日本のこころ」 ハートピア京都 大会議室	
6日(木)	16:30-18:40	民俗研究映像「屋久島の森に眠る人々の記憶」アンコール上映 東京農業大学百周年記念講堂	https://www.rekihaku.ac.jp/events/others/past/161013_ensemble/index.html
7日(金)	13:15-	4D2U定例公開「月の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
7日(金)	18:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体：M15(ペガス座にある球状星団)> 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/stargazing/
8日(土)	9:30-16:00	核融合科学研究所オープンキャンパス	
8日(土)	13:00-15:00	第393回歴博講演会「博物館資料のさまざまな見方・見え方 - デジタルが見せる博物館資料の未来 -」 国立歴史民俗博物館 講堂	http://sakura.rekihaku.ac.jp/nairan/events/lecture/index.html

8日(土)	13:15-	4D2U定例公開「月の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
9日(日)	11:00-12:00 (10:50集合) 13:30-14:30 (13:20集合)	ハチュカルー拓本作りでまなぶアルメニア十字架 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/2016khachkar
9日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 「魅せるモノ・魅せられるモノ—見世物のおもしろさを巡って」 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2F)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/440
10月12日(水)	11:30-12:15	ギャラリートーク 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/bungakushi.html
13日(木)	14:00-16:10	民俗研究映像「屋久島の森に眠る人々の記憶」アンコール上映 国立歴史民俗博物館 講堂	https://www.rekihaku.ac.jp/events/others/past/161013_english/index.html
10月14日(金)	18:30-20:00	第9回日文研・アイハウス連携フォーラム「海賊史観からみた世界史500年—『文明の海洋史観』の裏面を覗く」 国際文化会館 講堂	http://events.nichibun.ac.jp/ja/archives/kohenkai/s005/cal/2016/10/index.html
15日(土)	13:15-	4D2U定例公開「月の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
15日(土)	13:30-15:00 (13:00開場)	みんなくゼミナール「言葉から文化を考える—『アラブ的思考様式』再考」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/461
16日(日)	14:00-16:00 (13:30開場)	「人間ポンプ 安田里美 浅草木馬亭公演」上映会 国立民族学博物館 第5セミナー室(予定)(本館2F)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20160908misemono/event
16日(日)	14:30-15:15	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 「人間にとってカフェとは何か」 国立民族学博物館 第3セミナー室(本館2F)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/441
18日(火)- 12月18日(日)	9:30 - 16:30	企画展示「身体をめぐる商品史」 国立歴史民俗博物館 企画展示室A・B	http://sakura.rekihaku.ac.jp/nairan/exhibitions/project/index.html
18日(火)- 12月18日(日)	9:30 - 16:30	特集展示「百貨店と近世の染織」 国立歴史民俗博物館 第3展示室	http://sakura.rekihaku.ac.jp/nairan/exhibitions/special/index.html
21日(金)	14:00-19:00	三鷹・星と宇宙の日(プレ公開) 国立天文台三鷹キャンパス	http://www.nao.ac.jp/openday/2016/
22日(土)	10:00-17:30	国際シンポジウム「中国における歴史の資源化—その現状と課題に関する人類学的分析」 国立民族学博物館 第4セミナー室(本館2F)	
22日(土)	10:00-19:00	三鷹・星と宇宙の日(本公開) 国立天文台三鷹キャンパス	http://www.nao.ac.jp/openday/2016/
22日(土)	13:30-15:30	第211回くらしの植物苑観察会「野生きのこの見分け方・暮らし方入門」 国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	https://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/observation/index.html
22日(土)	13:30-15:40	「伊勢大神楽の獅子舞と放下芸—伊勢大神楽講社による総舞」 国立民族学博物館 本館前庭(雨天時:エントランスホール)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20160908misemono/event
23日(日)	14:30~ 15:15	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 「南米アンデス文明『ヘビ・ジャガー神官の墓』の発見」 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/442

10月27日(木) -11月29日 (火)	10:00-16:30	源氏物語 画帖と古写本 国文学研究資料館 展示室特設コーナー	
10月29日(土)	10:00-16:30	日文研一般公開	
10月29日	12:30-16:30 (12:00開場)	国立遺伝学研究所 公開講演会2016「出張!! 遺伝研」・学術総合センター2F 一橋講堂	https://www.nig.ac.jp/kouenkai/
30日(日)	14:30-15:15	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう「食からみる中国文化および世界とのつながり」 国立民族学博物館 本館展示場(中国地域の文化展示場)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/443

11月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
1日(火) -27日(日)	9:30-16:30	くらしの植物苑特別企画「伝統の古典菊」 立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	https://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/project/index.html
3日(木・祝)	13:30-16:00	平成28年度「古典の日」講演会 イイノホール	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/lecture/2016/kotennohi.html
3日(木・祝)、 5日(金)、 6日(日)	10:00-17:00	太陽塔望遠鏡特別公開 国立天文台三鷹キャンパス	http://prc.nao.ac.jp/museum/einstein/
5日(土)	13:15-	4D2U定例公開「衝突する銀河」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
6日(日)	13:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館	
10日(木)	18:30-20:40	公開講演会「私たちが人類はどこへ行くのか? スイカで踊る、クジラを祭る—生き物と人 共生の風景」 日経ホール(東京)	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/alp/161110
11日(金)	13:15-	4D2U定例公開「衝突する銀河」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
11日(金)	18:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体: 月 > 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/stargazing/
12日(土)	13:15-	4D2U定例公開「衝突する銀河」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
12日(土)	13:00-15:00	第394回歴博講演会「身体をめぐる商品史 - 学問と企業の役割 -」 国立歴史民俗博物館 講堂	https://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html
12日(土) -13日(日)	10:30-16:30	上映会・シンポジウム「台湾文化光点計画 民族誌映画にみる文化への視点—台湾、日本、ノルウェー、エチオピアの作品より」	
13日(日)	13:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館	
11月15日(火)	14:00-16:00	第305回日文研フォーラム「セルビア・アヴァンギャルド詩と『日本の古歌』」 ハートピア京都 大会議室	

注：11月15日(土)まで掲載しております。



【広報社会連携室から】

○総研大教員のテレビ出演情報

学融合推進センター 塚原直樹 助教、学術基盤情報センター 谷伊織 助教が9月22日(木)に放送されたNHK ニュースウォッチ9 (21:00-22:00) に出演されました。

放送：2016年9月22日(木・祝)、NHK「ニュースウォッチ9」21:00-22:00

内容：「人々を笑わせ考えさせる」魅力

塚原直樹助教、谷伊織助教らが研究を進めている「カラスを騙し対話できるドローンを作りたい」について取り上げられました。

関連URL：

[総研大HP] <http://www.soken.ac.jp/news/30782/>

[NHK ニュースウォッチ9] <http://www9.nhk.or.jp/nw9/digest/2016/09/0922.html>

○神奈川新聞連載コラム記事について

本学の知名度向上と総研大教員の研究の社会還元を目的として、神奈川新聞リレー記事『最先端の現場－総研大発－』を6月10日(金)から毎月隔週(第2・第4金曜日)で掲載しております。10月3日現在、連載全24回中第8回目まで記事が掲載されました。連載記事は、総研大HP上でも見ることができます。

詳細は、下記のURLをご覧ください。http://www.soken.ac.jp/intro_researcher/

(総研大HP上での掲載は、権利関係上、掲載日から1年間のみとなります。)

連載第8回までの執筆者一覧

掲載順	掲載日	研究科	専攻	執筆者	役職
1	6/10	葉山本部	広報社会連携室	眞山聡	講師
2	6/24	物理	宇宙科学	橋本博文	准教授
3	7/8	文化	国際日本研究	細川周平	教授
4	7/22	物理	構造分子科学	正岡重行	准教授
5	8/13	生命	遺伝学	斎藤成也	教授
6	8/26	複合	極域科学	猪上淳	准教授
7	9/9	高エネ	物質構造科学	千田俊哉	教授
8	9/23	文化	日本歴史研究	山田康弘	教授

新聞発行後、総研大HPに記事を掲載いたしますので、ぜひ総研大HPへお越し下さい！！

○10月10日(月・祝)に開催される第21回 自然科学研究機構シンポジウムに参加

第21回 自然科学研究機構シンポジウムに参加します。当日は、総研大のブースを出展します。

詳細は、下記の通りです。

開催日時：10月10日(月・祝)、12:50-16:00(開場 12:00)

開催場所：東京工業大学 蔵前会館

○広報特派員の募集について

広報社会連携室では、広報特派員を募集しております。総研大の広報活動にご協力いただける学生さんの応募をお待ちしております。

詳細につきましては、下記URLをご覧ください。

<http://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/information/corres/>



【編集後記】

総研大ニューズレター第 100 号をお届けします！記念すべき 100 号です！！100 号ですよ！！！！100 号ということで、通常発行時よりもボリュームアップしておりますので、読み応えのある内容になっているかと思えます。お楽しみ頂けたら、幸いです。

私ごとになりますが、広報社会連携室に配属されてから、6ヶ月になりました。年々、時間の流れが早くなっていくように感じます。総研大のため、より一層、努力してまいりますので、よろしく願いいたします。

トピックスの原稿をご寄稿いただけましたら、総研大ニューズレターへ掲載いたしますので、総研大関係のイベント、受賞情報等ありましたら、是非とも広報社会連携室まで情報をお寄せください。

広報社会連携室 E・A

広報社会連携室では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻（基盤機関）との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携室までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報は是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

発行 2016年10月3日
編集



国立大学法人

総合研究大学院大学

SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES)

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

広報社会連携室

TEL 046-858-1590 / FAX 046-858-1632

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2016SOKENDAI